

社会資本整備審議会道路分科会 平成 25 年度第 2 回中国地方小委員会
《議事要旨・議事録》

1. 日 時

平成 25 年 11 月 11 日（月） 13:30～15:20

2. 場 所

広島合同庁舎 2 号館 7 階 共用 5 号会議室

3. 出席者

<委員>

◎	<small>ふじわら</small> 藤原	<small>あきまさ</small> 章正	広島大学大学院 国際協力研究科 教授
	<small>かまくら</small> 鎌倉	<small>ひであき</small> 秀章	中国経済連合会 専務理事
	<small>はった</small> 八田	<small>のりこ</small> 典子	島根県立大学 総合政策学部 教授
	<small>こいけ</small> 小池	<small>あつし</small> 淳司	神戸大学大学院 工学研究科 教授

※敬称略 ◎は委員長

4. 議 題

- (1) 計画段階評価に向けた検討
山陰道（はわい～大栄東伯）
- (2) 優先区間の絞り込みに向けた検討
山陰道（須子～萩）
山陰道（三隅～小月）

5. 委員からの主な意見

○ 計画段階評価に向けた検討 山陰道（はわい～大栄東伯）

- ・他区間と比較して事故発生が高いなど、事故・産業・観光等の課題を解決するため、早期に高規格道路が必要。
- ・その地域や現道の課題だけで必要性を説明するだけでなく、より広域的なネットワークとしての意味や必要性も確認すべき。
- ・現道の課題を解決することで鳥取県中部地域の経済が良くなるのかといった点についても、必要性を議論すべき。
- ・アンケートについても広域的な道路利用者の声の把握に努めるなど、山陰道が持つべき機能を評価できる対象者の選定と質問にすることが必要。

○ 優先区間の絞り込みに向けた検討 山陰道（須子～萩）

- ・この手続きは、それぞれを適切な区間に分けて、そのうち優先的に対策を行う箇所の順位を付けていくことと、その際に地域や利用者側の声も聞いていくといった手続きであると理解。
- ・個々の区間の便益だけで絞り込みを行うのではなく、山陰道ネットワーク全体を繋ぐことを考慮し、便益の発現も踏まえ戦略的に絞り込み区間を検討する必要がある。例えば、個々の事業では、便益は大きくないが、ネットワークが完成すると、便益が大きくなる可能性がある。残った区間の必要性が説明できないことにならないようにすべき。
- ・この区間は、防災の要素が非常に強い区間になるのではないか。
- ・絞り込みについて、地域の意見を聴く際には、広域的なネットワークとしての効果を意識しながら、地域のニーズを考えて貰えるようにして欲しい。

○ 優先区間の絞り込みに向けた検討 山陰道（三隅～小月）

- ・広域ネットワークとして山陰道と地域の課題である災害時の孤立集落解消のための道路は、機能が異なっているのではないか。
- ・現道が広域ネットワークとしての使い方をされていない中で、当該箇所の山陰道の需要をよく検討して欲しい。
- ・災害時の孤立集落の発生は命を守るという観点において、重要な課題であり、高い優先度として位置づけるべき。

6. 総括

《計画段階評価に向けた検討 山陰道（はわい～大栄東伯）》

- ・その区間だけの便益だけではなく、広域的なネットワーク全体の効果も検証すること。
- ・アンケートは、内容や被験者の選び方を工夫し、山陰道が本来持つ機能が分かるようにする必要がある。

《優先区間の絞り込みに向けた検討 山陰道（須子～萩）、（三隅～小月）》

- ・今まで通り、区間としての課題や重要性については整理を行うこと。
- ・単独事業（区間）だけの便益だけではなくて、着手する順番を検討する中で、長期的な視野での便益を検討することが重要。
- ・区間設定については、ある程度制限もあると思われるが、単独の区間評価だけでなく、ネットワークとしての効果の検討も必要。
- ・今ある地域の課題に加え、地域の総合計画とも照らし合わせて必要性を整理すること。
- ・地域と道路の課題については概ね十分な検討がなされているが、優先区間の絞りこみという初めての取り組みとして、今までとは違う見方が必要のため、今日の意見を踏まえて進め方について検討すること。

以上